

木更津工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	国文学	
科目基礎情報							
科目番号	0004			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	情報工学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	坂口安吾『墮落論』（集英社、1990）（随時プリントも配布する。）						
担当教員	加藤 達彦,和崎 浩幸						
到達目標							
1.文芸作品の読解を通じて、固定観念にとらわれない柔軟な発想を展開することができる。 2.自らの思考を問い直しながら、社会が抱える諸問題について多角度から考察することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	文章や映像による情報を正確に読み取り、自らの考えを深めながら理解することができる。			文章や映像による情報を読み取り、おおむね理解することができる。		文章や映像による情報を読み取ることができない。	
評価項目2	与えられたテーマについて、自らの考えを他者に強く訴える文章を書くことができる。			与えられたテーマについて、自らの考えをまとめ、誤字や脱字のないように書くことができる。		与えられたテーマについて、自らの考えを書くことができない。	
評価項目3	文芸作品を通じて人間や社会の諸問題について主体的・積極的に判断し、主張することができる。			文芸作品を通じて人間や社会の諸問題を把握し、自分の意見を持つことができる。		文芸作品を通じて人間や社会の諸問題を把握することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	対象作家に関する様々なテキストや映画等を読解・鑑賞し、そこから社会の諸問題について自分の意見を持つことを目標とする。 読み、書くことによって、ものの見方、感じ方、考え方を深め、ぜひ自らの問いを発見してほしい。						
授業の進め方・方法	①テキストとプリント等を使って授業を行う。 配布するプリントは必ずファイルし、復習できるようにすること。 ②授業のなかで課題を提示し、おおよそ隔週のペースで小レポートを書いてもらう。 この小レポートも成績に反映されるので、未提出がないように気をつけること。 ③レポートの講評と解説を組み合わせる講義するので、レポートには積極的に取り組むこと。 ④中間試験は行わず、前期末のみ試験を行う。						
注意点	何事にも興味・関心を持つことが大切である。 文芸作品を単に読み流すのではなく、その読書体験をきっかけにして、自らの感覚を研ぎ澄まし、思考を深めることを心掛けてほしい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業の進め方、レポートの取り組み方等を把握し、対象作家に関する基本情報を理解する。		
		2週	（1）「風博士」を読解する。		Farceについて理解する。		
		3週	（2）「風博士」を読解する。		Farceについて理解し、小説の構造を分析する。		
		4週	（1）「ふるさとに寄する讃歌」を読解する。		「ふるさとに寄する讃歌」の構造について理解する。		
		5週	（2）「ふるさとに寄する讃歌」を読解する。		対象作家独自の〈ふるさと〉という概念について理解する。		
		6週	（1）『吹雪物語』を読解する。		『吹雪物語』のテーマについて理解する。		
		7週	（2）『吹雪物語』を読解する。		『吹雪物語』のテーマを1930年代の社会状況と関連させて分析する。		
		8週	（1）映画鑑賞		対象作家原作の映画を鑑賞し、そのテーマについて自分の意見をまとめる。		
	2ndQ	9週	（2）映画鑑賞		映画を踏まえ、〈戦争〉と〈性〉の関わりについて考察する。		
		10週	「日本文化」を撮影する。		写真を撮ることで日本文化に関する理解を深める。		
		11週	「日本文化私観」を読解する。		日本文化や伝統にまつわる〈対－形象化の論理〉を理解する。		
		12週	探偵小説の謎解きに挑戦する。		探偵小説を読解し、トリックの構造を理解する。		
		13週	「不連続殺人事件」を読解する。		探偵小説が孕んでいるアポリアを実感しながら「不連続殺人事件」の特質を理解する。		
		14週	「桜の森の満開の下」を読解する。		演劇や映画等に再編される「桜の森の満開の下」を〈ウツ・ロ・ヒ〉という観念から考察する。		
		15週	前期末試験		今までの授業内容をふまえて、設問に対して正しく解答する。		
		16週	試験の解答と解説		試験問題を見直し、的確な解答のポイントを確認する。		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0